

景況調査

報告書 NO. 53

平成23年 10月～12月 実績
平成24年 1月～3月 見通し



蒲郡商工会議所
中小企業相談所

平成23年度第3四半期(H23. 10～12月)景況調査

1. 調査時点 平成23年12月5日～22日

2. 調査対象

(1) 対象地区

蒲郡市内

(2) 対象(回答)企業

135[128企業、7団体＝三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法

聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	56 (3)	10 (2)	18 (1)	32	12 (1)	7	135 (7)

※ ()は団体

5. 概況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、前年同期比で△14.8、前期実績(7～9月・△11.0)と比較すると3.8ポイントの下降、悪化の傾向が見られ、前期比については△18.5、前期実績(7～9月・△10.1)と比較すると8.4ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**売上DI値**については、前期比で△0.8、前期実績(7～9月・△7.0)と比較すると6.2ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**収益DI値**については前期比で△13.4、前期実績(7～9月・△9.4)と比較すると4.0ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**総合判断来期(H24.1～3月)見通し**については△26.0、今期の実績(全業種(当期実績)前期比 △18.5)と比較すると7.5ポイントの下降であった。

「**製造業**」のうち**食料品**は、年末の繁忙期で売上は確保も、原材料高と海外との価格競争激化で採算面は厳しい。**織物**は、12月に仕事量が増加。自動車資材も復調の兆しで、寝装資材は春夏物を中心に増加。**漁網・ロープ**のうち、復興需要でロープの繁忙は続く。建築・土木用途に動きあり。他は例年並み。**鉄工**のうち、工作機械関係は外需で好調も、超円高の継続と欧州景気に不安。自動車部品関連は、震災後の挽回生産が本格化で繁忙もタイ洪水で一次ストップ。現在は回復も震災前の水準には届かず。**化学・プラスチック**のうち、化学工業は、販売量回復も円高、原材料高で採算は悪化。プラスチックは、原材料高騰は緩和されつつあるが、円高による製造業の鈍化が懸念。

「**建設業**」は、公共工事・民間工事とも厳しい状況が続く。資金繰りも3月に向け厳しい見通し。

「**卸売業**」のうち、繊維卸は、<産業資材関連>車両業界の増産で動き出すも、タイ洪水後の動きが不安定。<寝装関連>トップシーズンで受注量は確保も、低調に推移。<衣料関係> 防寒衣料関連は動きが鈍い。春夏衣料向けが動き出すも、原材料高騰で採算は悪化。

「**小売業**」は、震災後から個人消費は回復傾向にあるが、依然として売上・客単価は横バイで低調である。**飲食**は、忘新年会の動きは例年並みであった。**石油**は、国内製造業は回復傾向も、円高・個人消費低迷、さらにタイ洪水・不安定な欧州動向の影響で原油価格は80～100ドル超へと上下動。今期は需要期にあり先高で推移した。

「**サービス業**」のうち**旅館関係**は、忘新年会シーズンも前年比微減で推移。日帰り個人旅行や、好調なバスツアーなど変化する旅行形態への対応が必要。新たな取り組み「オンパク」の活用も進める。

「**運輸通信業**」**貨物輸送**のうち、輸出は国内製造業が回復するも、円高・欧州債務不安・米国景気停滞に、タイ洪水等の影響で前年比増に留まる。輸入は木材等が前年比微増で推移。**バス業界関係** 震災後の影響はほぼ回復。

設備投資状況は、31事業所(50件)で設備投資が実施され、生産設備他に投資された。来期は30事業所(37件)が設備投資を計画している。

経営上の問題点では、売上の停滞・減少、利幅の縮小、競争激化、原材料(燃料)高、消費者ニーズの変化の対応が項目別で上位を占めていた。

当地区において 震災後の復興・挽回が本格化するも、タイの洪水・欧州景気の減速等の影響で製造業が一次停滞。全業種では伸び悩みの様相。個人消費低迷からくる売上減少に加え、円高・原材料高による利幅縮小により、見通しは厳しい。当所としては、中小企業相談所機能の充実による経営支援体制の強化と人材育成事業「ジーアカデミー」の充実等を通じて、中小企業の基盤強化を支援すると共に、地域一体となって経済振興・活性化を図る所存である。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

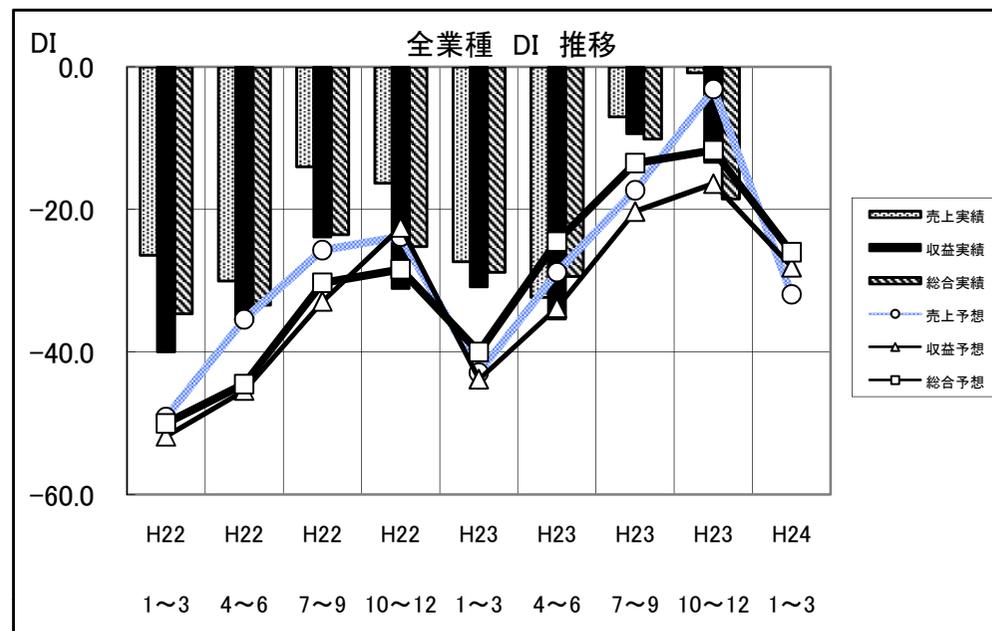
<全業種 各項目別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成22年10月～12月 に比べて	前期比 平成23年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成24年1月～3月 の見通し		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
①生産額・売上額	-14.1	-0.8	-31.9	H22. 10～12月実績	-28.9	-16.3	-39.2	-31.1	-24.4	-25.2	-40.0
②製品・商品在庫	-12.6	-11.9	-9.7	H23. 1～3月実績	-11.5	-27.3	-23.8	-30.9	-9.4	-28.8	-24.5
③資金繰り	-12.6	-7.4	-13.3	H23. 4～6月実績	-28.5	-32.3	-32.6	-35.4	-27.1	-29.4	-13.5
④採算(収益)	-23.7	-13.4	-28.1	H23. 7～9月実績	-6.2	-7.0	-18.7	-9.4	-11.0	-10.1	-11.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-1.4	-5.2	-5.2	H23. 10～12月実績	-14.1	-0.8	-23.7	-13.4	-14.8	-18.5	-26.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-14.8	-18.5	-26.0								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H23.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-26.4	-30.0	-14.0	-16.3	-27.3	-32.3	-7.0	-0.8	-31.9
収益	-40.0	-35.7	-23.9	-31.1	-30.9	-35.4	-9.4	-13.4	-28.1
総合	-34.6	-33.4	-23.5	-25.2	-28.8	-29.4	-10.1	-18.5	-26.0

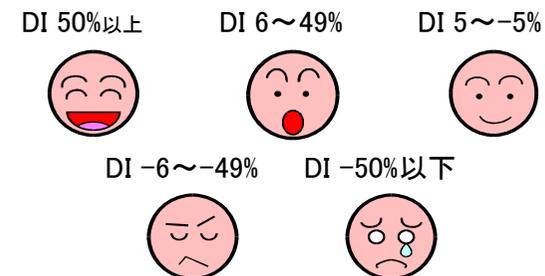
◎DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数)について
DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合ー減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)ー(減少) 採算(収益) :DI=(上昇)ー(下降)
製品・商品在庫 :DI=(減少)ー(増加) 従業員数 :DI=(増加)ー(減少)
資金繰り :DI=(好転)ー(悪化) 業況(総合判断) :DI=(好転)ー(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き
DIが0 ⇒ 景気横ばい
DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)



6. 業種別報告

製造業

売上DI値は28.6、前期実績7～9月期(24.0)に比して4.6ポイントの上昇、収益DI値は8.9、前期実績7～9月期(18.0)に比して9.1ポイントの下降、総合判断DI値は1.8、前期実績7～9月期(△16.0)に比して14.2ポイントの下降と、売上は上昇するも収益・総合は悪化傾向である。向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合ともに下降傾向であり、先行きに不安も。

製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成22年10月～12月 に比べて	前期比 平成23年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成24年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	21.4	28.6	-16.1
②製品・商品在庫	-7.1	0.0	-1.8
③資金繰り	9.0	3.6	-1.8
④採算(収益)	3.6	8.9	-12.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	21.5	9.0	1.8
⑥貴社の業況(総合判断)	12.5	1.8	-12.5

[食料品]

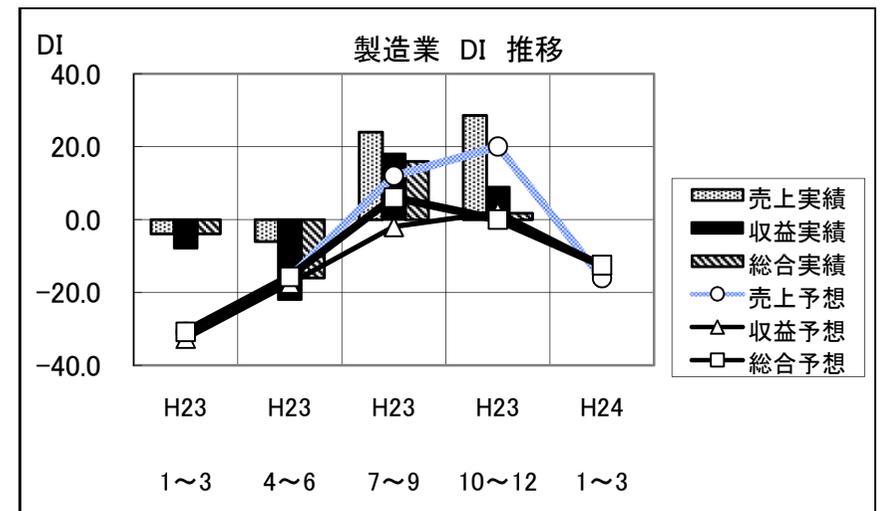
売上は、年末の需要期に入り前期比DI値は100.0%と好転。前年同期比でもDI値40.0%と好転の傾向にある。一方収益は、前期比DI値では20.0%と改善しているが、前年同期比ではDI値△60.0%と悪化。原材料価格の上昇による影響を懸念する声が多い。総合判断では前期比DI値は0.0%と横バイであるが、前年同期比ではDI値△20.0%と業況は悪化。

向こう3カ月の見通し 年末の需要期を過ぎて売上はDI値△80.0%と一転して悪化。収益DI値△40.0%、総合判断DI値△20.0%と業況は厳しくなることが予想される。国内の食品業界は、海外製品との価格競争にさらされており、原材料コストの負担感に加えて、今後海外生産への依存が強まることが懸念される。

(食料品)

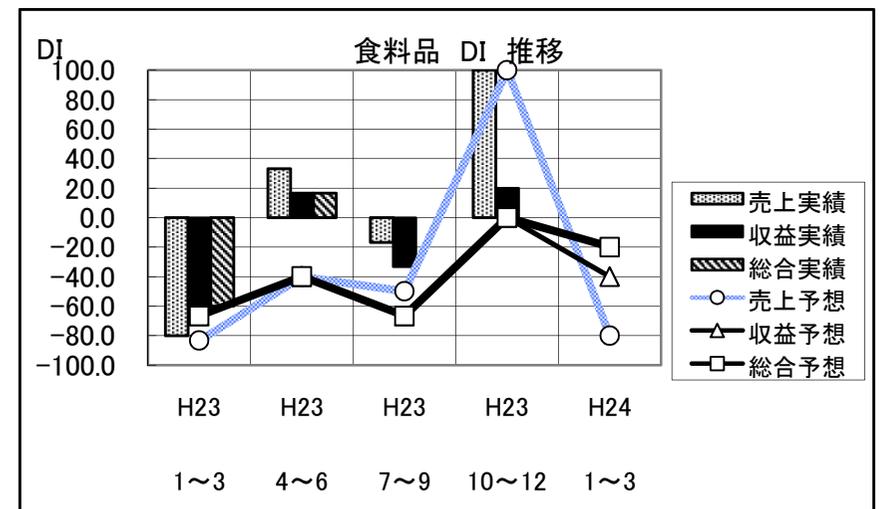
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成22年10月～12月 に比べて	前期比 平成23年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成24年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	40.0	100.0	-80.0
②製品・商品在庫	-40.0	-40.0	-40.0
③資金繰り	-20.0	-20.0	-40.0
④採算(収益)	-60.0	20.0	-40.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-20.0	20.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-20.0	0.0	-20.0



<業況判断DIの推移>

	H23.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-3.9	-6.0	24.0	28.6	-16.1
収益	-7.9	-22.0	18.0	8.9	-12.5
総合	-3.9	-16.0	16.0	1.8	-12.5



<業況判断DIの推移>

	H23.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-80.0	33.3	-16.7	100.0	-80.0
収益	-60.0	16.6	-33.3	20.0	-40.0
総合	-60.0	16.6	0.0	0.0	-20.0

[織物]

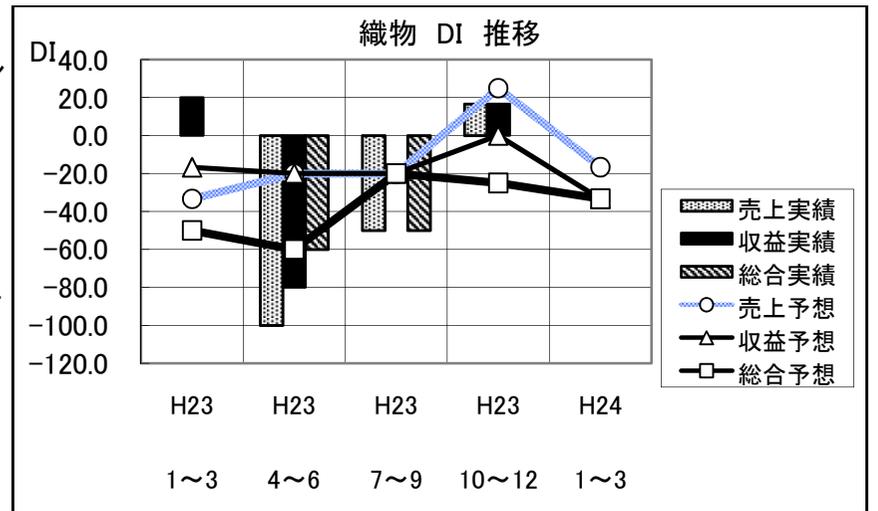
11月までは絶望的な状況が続いたが、12月に入ると一気に仕事量が増加。インテリア商材は中国シフトが進み壊滅的と思われたが、タイの洪水の影響か一部日本回帰現象がみられるも一過性のものであると思う。自動車資材も復調の兆し。寝装資材は春夏物を中心に増加。三河産地は春夏商材の強みはあるが、秋冬物は苦戦を強いられている。

向こう3カ月の見通し 1~2月はそこそこの仕事量を確保するも、3月以降何が起きても不思議ではない。綿価市場も落ち着きを見せており、1ポンド80セントの水準まで下がる。三河産地も大半の工場が姿を消して久しく小規模工場であるが、生産量ではそこそこ保っている。産地形態を残すためにも、来年3~4月以降の振興策を打ち建てないと、産地は消えて行くような気がする。

(織物)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成22年10月~12月 に比べて	前期比 平成23年7月~9月 に比べて	来期見通し 平成24年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	16.6	-16.6
②製品・商品在庫	-33.3	16.6	0.0
③資金繰り	-16.7	-16.7	0.0
④採算(収益)	0.0	16.6	-33.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-16.7	-16.7	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	0.0	-33.3



<業況判断DIの推移>

	H23.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	0.0	-100.0	-50.0	16.6	-16.6
収益	20.0	-80.0	0.0	16.6	-33.3
総合	0.0	-60.0	-50.0	0.0	-33.3

[漁網・ロープ]

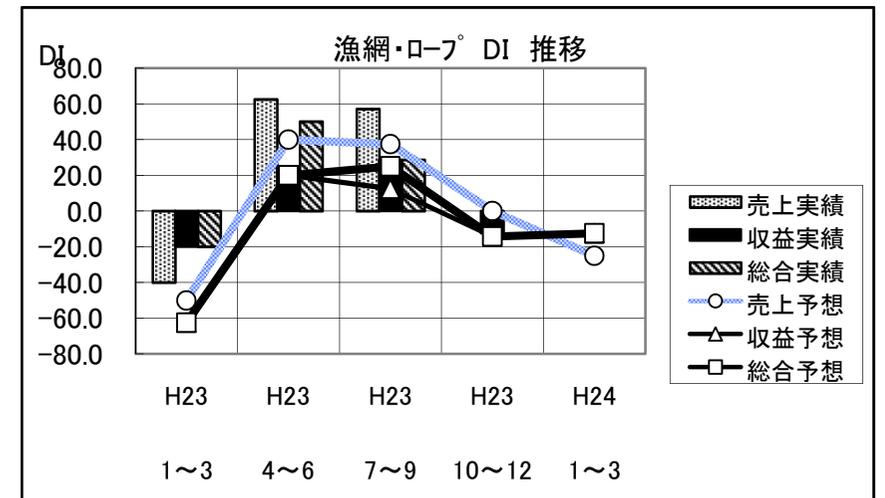
東日本大震災後の水産業復興需要は旺盛でロープは堅調。漁網は水温上昇の為か沿岸部で不漁が多く、回収面でやや不安も。建築・土木は動きがスタート。スポーツ・自動車関連は例年並みである。

向こう3カ月の見込み 復興需要によりロープは多忙の見込み。スポーツ・自動車関連は例年並みで推移する見込み。建築・土木関係の活発化に期待。(繊維ロープ部会)

(漁網・ロープ)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成22年10月~12月 に比べて	前期比 平成23年7月~9月 に比べて	来期見通し 平成24年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	75.0	0.0	-25.0
②製品・商品在庫	37.5	25.0	25.0
③資金繰り	25.0	12.5	12.5
④採算(収益)	75.0	-12.5	-12.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	62.5	25.0	-12.5
⑥貴社の業況(総合判断)	62.5	0.0	-12.5



<業況判断DIの推移>

	H23.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-40.0	62.5	57.1	0.0	-25.0
収益	-20.0	25.0	28.6	-12.5	-12.5
総合	-20.0	50.0	28.6	0.0	-12.5

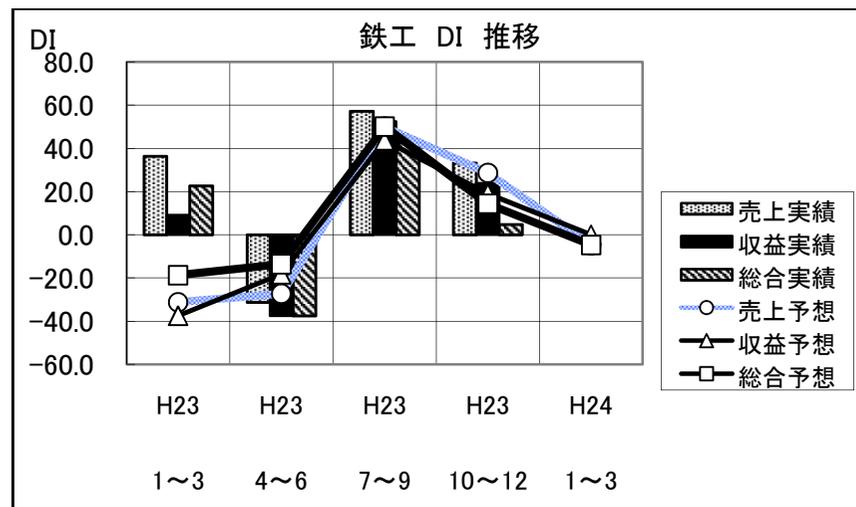
[鉄工]

<工作機械関係> 生産は繁忙に推移。外需頼みの生産増が続く。受注は、超円高であるが大きな変化無し。中国需要は維持しているが、ヨーロッパの低迷が大きく、米国の需要でカバーしている。 向こう3カ月の見通し 国内は期待する復興関連需要が数値として表れない。海外では、米国で安定した需要が見込まれるが、中国は動向を注視。ヨーロッパは当分需要が見込めない状態で、超円高による収益圧迫が各社で課題。

<自動車部品関係> 生産に関して、自動車各社は9月より挽回生産で繁忙だったが、タイ洪水の影響で減産に転じた。現在は正常化の様相だが、円高もあり震災前の水準には届かず。自動車各社は、今回を契機に海外生産(特に米国)に舵を切る。今年度は良いが、国内輸出向け加工メーカーの減産は避けられず、失業者も増加する見込み(特に40代以降) 向こう3カ月の見通し 今年中は何とか増産体制も、円高を嫌って海外工場の移設、増産計画が際立つ(特に米国)。来期以降の生産計画に注視している。(金属鉄工部会)

(鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成22年10月～12月 に比べて	前期比 平成23年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成24年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	28.6	33.3	-4.8
②製品・商品在庫	-4.8	4.8	4.7
③資金繰り	14.2	4.7	0.0
④採算(収益)	23.8	23.9	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	42.8	23.8	4.7
⑥貴社の業況(総合判断)	23.8	4.8	-4.7



<業況判断DIの推移>

	H23.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月見通し
売上	36.4	-31.3	57.2	33.3	-4.8
収益	9.1	-37.5	52.4	23.9	0.0
総合	22.7	-37.5	42.8	4.8	-4.7

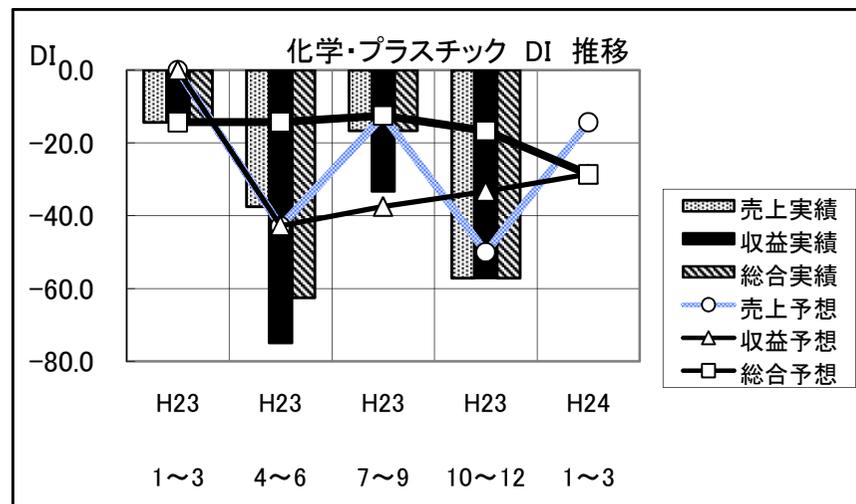
[化学・プラスチック]

<化学工業> 販売数量は回復するも、原材料高と円高で採算が大幅に悪化。向こう3カ月の見通し 中国向け出荷減少の恐れあり、売上減の可能性も。

<プラスチック> 売上は前年同期比・前期比で伸び悩み。原材料高騰が緩和され、収益も僅かに改善された。超円高の影響による自動車産業の鈍化を懸念。向こう3カ月の見通し 売上・原材料価格とも横バイの見込み。(化学部会)

(化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成22年10月～12月 に比べて	前期比 平成23年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成24年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-57.1	-57.1	-14.3
②製品・商品在庫	-28.6	-28.6	-14.3
③資金繰り	-14.3	-14.3	-28.6
④採算(収益)	-85.7	-57.1	-28.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	14.3	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-71.4	-57.1	-28.6



<業況判断DIの推移>

	H23.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月見通し
売上	-14.3	-37.5	-16.6	-57.1	-14.3
収益	-14.3	-75.0	-33.3	-57.1	-28.6
総合	-14.3	-62.5	-16.6	-57.1	-28.6

建設業

売上DI値は△30.0、前期実績7～9月期(△33.3)に比して3.3ポイントの上昇、収益DI値は△70.0、前期実績7～9月期(△58.3)に比して11.7ポイントの下降、総合判断DI値は△70.0、前期実績7～9月期(△41.7)に比して28.3ポイントの下降と、売上は改善も総合・収益に悪化傾向が見られた。向こう3カ月の見通し売上は下降も、収益・総合は改善。ただし、依然として水面下の厳しい状況が続く。

公共工事は動きはあるも依然として低調。競争の激化等で民間工事も収益面で厳しい状況が続く。資金繰りも徐々に悪化。本所建設部会においては新市長の稲葉市長に対して要望を実施し、適正な公共事業予算の確保・運用等について要望を行った。(建設部会)

建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成22年10月～12月 に比べて	前期比 平成23年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成24年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-40.0	-30.0	-40.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-40.0	-30.0	-30.0
④採算(収益)	-70.0	-70.0	-40.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-10.0	-20.0	-30.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-70.0	-70.0	-50.0

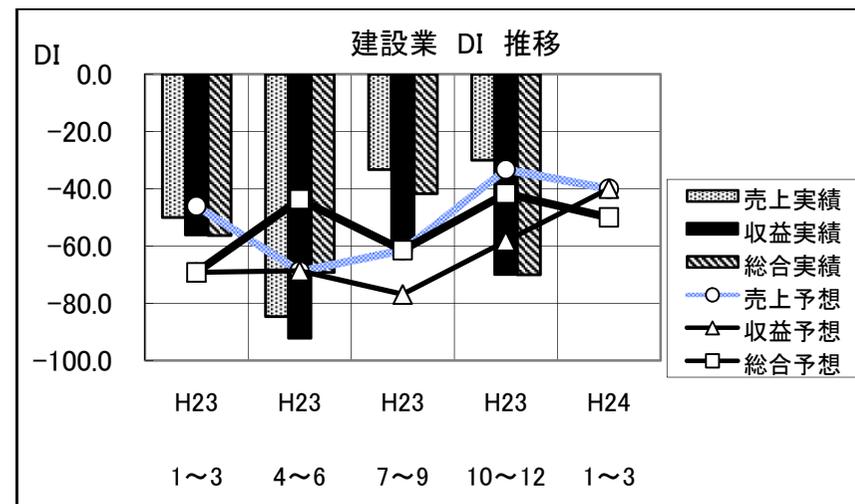
卸売業

売上DI値は△5.6、前期実績7～9月期(△16.7)に比して11.1ポイントの上昇。収益DI値は△16.7、前期実績7～9月期(△22.2)に比して5.5ポイントの上昇、総合判断DI値は△16.7、前期実績7～9月期(△11.1)に比して5.6ポイントの下降と、水面下にあるものの売上・収益は改善、総合は僅かに悪化傾向であった。向こう3カ月の見通し売上・収益・総合とも厳しい見通し。

卸売業

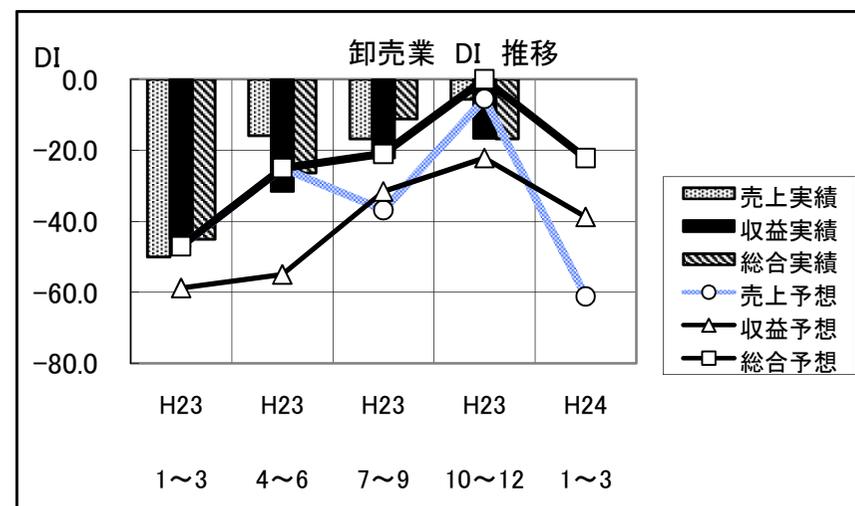
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成22年10月～12月 に比べて	前期比 平成23年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成24年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-16.7	-5.6	-61.1
②製品・商品在庫	-44.4	-50.0	-38.9
③資金繰り	-22.2	0.0	-11.1
④採算(収益)	-11.1	-16.7	-38.8
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-16.7	-22.2	-5.6
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	-16.7	-22.2



<業況判断DIの推移>

	H23.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-50.0	-84.6	-33.3	-30.0	-40.0
収益	-56.2	-92.3	-58.3	-70.0	-40.0
総合	-56.3	-69.2	-41.7	-70.0	-50.0



<業況判断DIの推移>

	H23.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-50.0	-15.8	-16.7	-5.6	-61.1
収益	-45.0	-31.6	-22.2	-16.7	-38.8
総合	-45.0	-26.3	-11.1	-16.7	-22.2

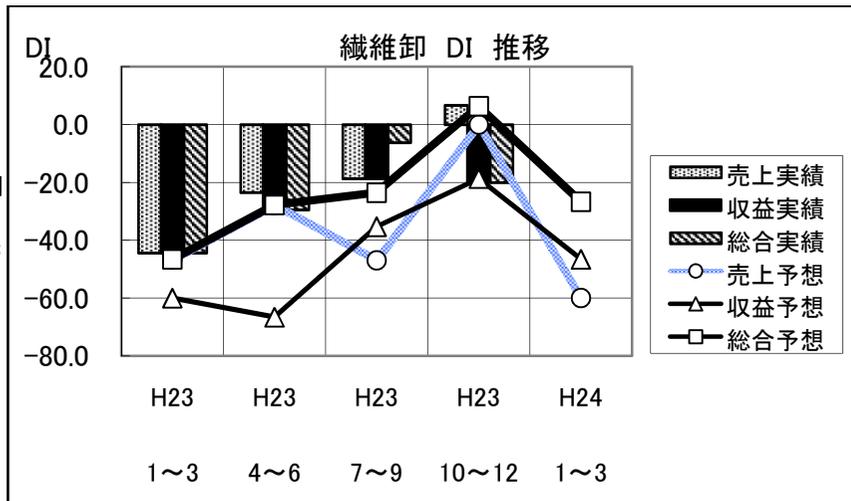
[繊維卸]

<産業資材関連>年初の原材料高騰に始まり、夏以降東日本大震災復興の流れに支えられ、また車両生産の大増産に伴い、産業資材・各品番の動きが活発化。商品により異なるが、急に注文が入るケースも有り目先の対応を迫られる。10月以降はタイの洪水もあり不安定。向こう3カ月の見通し 産業資材関係の商品、特に車両用途は3月まで継続して動く見込みで、その後は不明。他の資材関係も目先対応に終始する見込み。 <服装関連> 秋・冬から春にかけてのトップシーズンとなる為、発注量はある。向こう3カ月の見通し 春の移動、就進学での需要に期待。 <衣料関係> 外衣等の防寒関連は動きが鈍く、全体的に在庫過剰気味。クオリティーが高く安価な一部商品は不足が見られるが極めて稀なケース。また、来年春夏の衣料向け生地が動き出す。傾向は細番手のローン、ポイル、素材はレーヨン、麻、綿麻など。新素材では先染め・接触冷感ポータ素材のニーズが多い。昨年来の原材料高騰のため利幅は5～10ポイントダウン 向こう3カ月の見通し 春物衣料の需要は少なく、初夏物が中心となるため動きは鈍い。また、最終ユーザーが百貨店、専門店、通販向けの商品は厳しい。ただ現物商戦になるためリスク品の需要が見込める。(繊維部会)

(繊維卸)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成22年10月～12月 に比べて	前期比 平成23年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成24年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-6.6	6.7	-60.0
②製品・商品在庫	-53.3	-60.0	-46.7
③資金繰り	-26.7	0.0	-13.3
④採算(収益)	-6.6	-20.0	-46.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-13.3	-6.7
⑥貴社の業況(総合判断)	6.7	-20.0	-26.7



<業況判断DIの推移>

	H23.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月見通し
売上	-44.4	-23.5	-18.7	6.7	-60.0
収益	-44.5	-29.4	-18.8	-20.0	-46.6
総合	-44.4	-29.5	-6.2	-20.0	-26.7

小売業

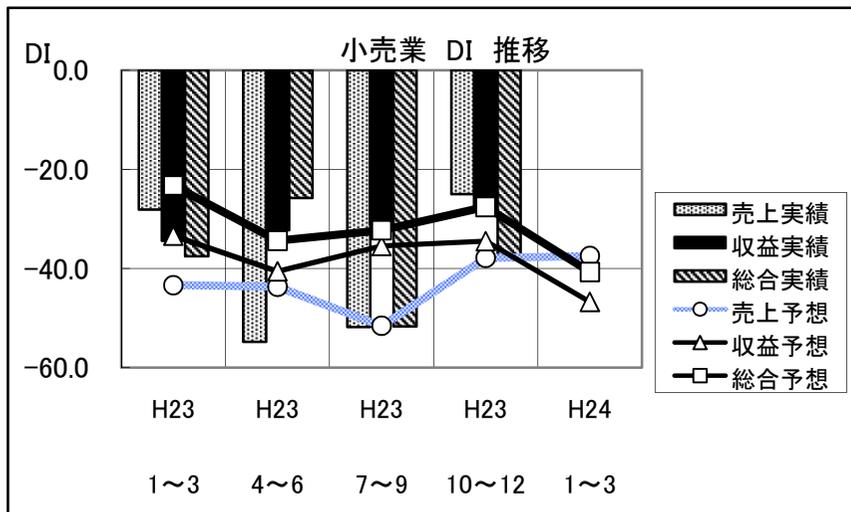
売上DI値は△25.0、前期実績7～9月期(△51.8)に比して26.8ポイントの上昇。収益DI値は△28.2、前期実績7～9月期(△31.1)に比して2.9ポイントの上昇、総合判断DI値は△37.5、前期実績7～9月期(△51.7)に比して14.2ポイントの上昇と、売上・収益・総合とも水面下ではあるものの改善傾向が見られた。向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合判断ともに悪化傾向にある。

東日本大震災の影響による個人消費の落ち込みは徐々に回復してきているように感じられる。しかし、「売り出しをしてもあまり効果が出ない」といった声もあり、全体で見ると売上はほぼ横ばい状態が続き、依然として厳しい状況である。向こう3カ月の見通し しばらくは個人消費の伸び悩みの状態が続くものと思われるが、新年に向けて景気が好転し、消費の回復を期待したい。(商業部会)

小売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成22年10月～12月 に比べて	前期比 平成23年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成24年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-50.0	-25.0	-37.5
②製品・商品在庫	-12.5	-18.8	-15.6
③資金繰り	-37.5	-25.0	-28.1
④採算(収益)	-56.3	-28.2	-46.8
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-15.6	-6.2	-6.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-43.8	-37.5	-40.7



<業況判断DIの推移>

	H23.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月見通し
売上	-28.1	-54.8	-51.8	-25.0	-37.5
収益	-34.4	-32.3	-31.1	-28.2	-46.8
総合	-37.5	-25.8	-51.7	-37.5	-40.7

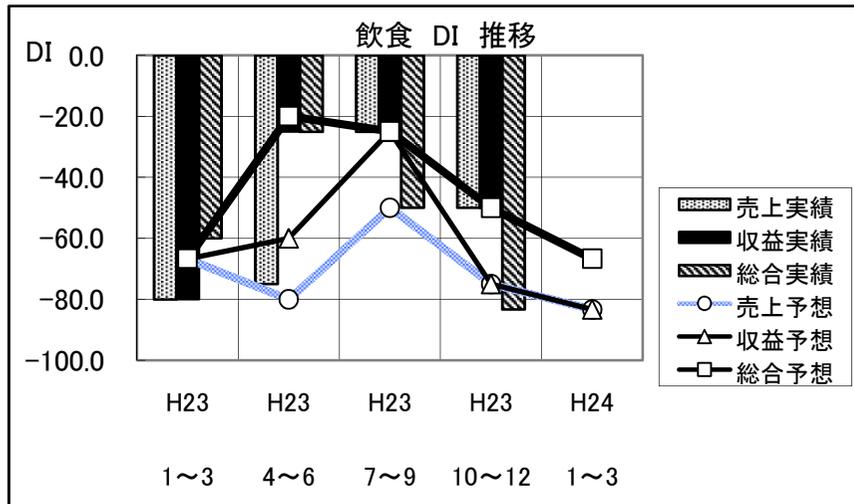
[飲食]

忘年会や新年会は景気が悪いながらも前年並みの見込み。冬季の市内各地イルミネーションは良い取組だが、観光客が地元の飲食店に立ち寄ることは少なく、飲食店への集客効果は薄く感じる。11月で終了したオンパクについて、本年度は飲食組合の足並みが揃わなかったが、市外からの来客も多いため、来年度は連携をして蒲郡全体で盛り上げていきたい。向こう3カ月の見通し 忘・新年会の傾向から考えると、景気が悪いながらも節日の歓送迎会は前年並み以上を期待。また、アサリッチ、名鉄沿線店の紹介、携帯電話用アプリなど、飲食店を紹介する取組は色々行われており、今後も協力していきたい。アサリッチは本年度も作成を期待しているが、昔から地元で食べられているものなので、全く新しい商品を作るのはなかなか難しい。伊勢湾フェリーと豊橋(カレーうどん等)が連携した取り組みを行っている。伊勢から豊橋、さらに蒲郡を含めた取組等ができたなら良いと思う。(蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)

(飲食)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成22年10月～12月 に比べて	前期比 平成23年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成24年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-83.3	-50.0	-83.3
②製品・商品在庫	0.0	-16.7	-16.7
③資金繰り	-83.3	-66.7	-66.7
④採算(収益)	-83.3	-50.0	-83.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-16.7	16.7	-33.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-83.3	-83.3	-66.7



<業況判断DIの推移>

	H23.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-80.0	-75.0	-25.0	-50.0	-83.3
収益	-80.0	-25.0	-25.0	-50.0	-83.3
総合	-60.0	-25.0	-50.0	-83.3	-66.7

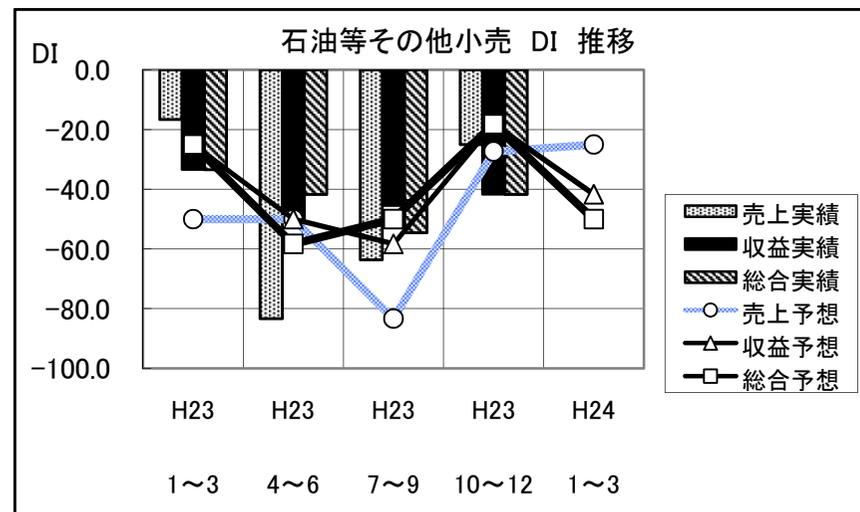
[石油等その他小売]

原油価格(WTI)は、10月に入り80ドルを中心に推移。欧州不安がくすぶる中、戦後最高の円高が進み国内企業の厳しさを増し、7月のタイ洪水被害の影響で製造の回復は小幅に留まる。11月に入り欧州金融機関の救済計画が報じられ、欧州中央銀行等の金融緩和姿勢などからWTIが続伸、100ドルを超えた。国内では企業の生産活動は回復傾向も、個人消費停滞の長期化やタイ洪水被害の影響拡大、不安定な欧米の景気動向などの影響で国内景気の回復は緩やか。12月もWTIは100ドルを越え、欧州で新たにイタリア債権不安が広がるなど不安要素を抱える中、原油価格は上昇・下落を繰り返しながら需要期を迎え先高傾向で推移。12月月初の主要元売会社(JX日鉱日石エネルギー、エクソンモービル、昭和シェル石油)の卸価格改定では、ガソリンはJXエネルギーが0.6円の値下げ、EM、昭和シェルは据え置きと対応が分かれ、中間留分は7週振りに値下げに転じている。向こう3カ月の見通し 今後の原油価格動向は、欧州各国の資金調達環境の悪化による米国、欧州の金融対策動向の影響を受けながら膠着した状況が続く見込み。また、わが国の国内経済の先行きは、当面、海外経済の減速や円高に加えて、タイの洪水の影響を受ける見込み。もっとも、中期的には新興国・資源国の成長に牽引されると共に、震災復興需要の顕在化で緩やかな回復傾向を描く見込み(エネルギー部会)

(石油等その他小売)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成22年10月～12月 に比べて	前期比 平成23年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成24年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-58.4	-25.0	-25.0
②製品・商品在庫	-25.0	-25.0	-16.7
③資金繰り	-41.7	-25.0	-25.0
④採算(収益)	-75.0	-41.7	-41.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-16.7	-8.3	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-58.3	-41.7	-50.0



<業況判断DIの推移>

	H23.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-16.6	-83.3	-63.6	-25.0	-25.0
収益	-33.4	-50.0	-45.5	-41.7	-41.7
総合	-33.4	-41.7	-54.5	-41.7	-50.0

サービス業

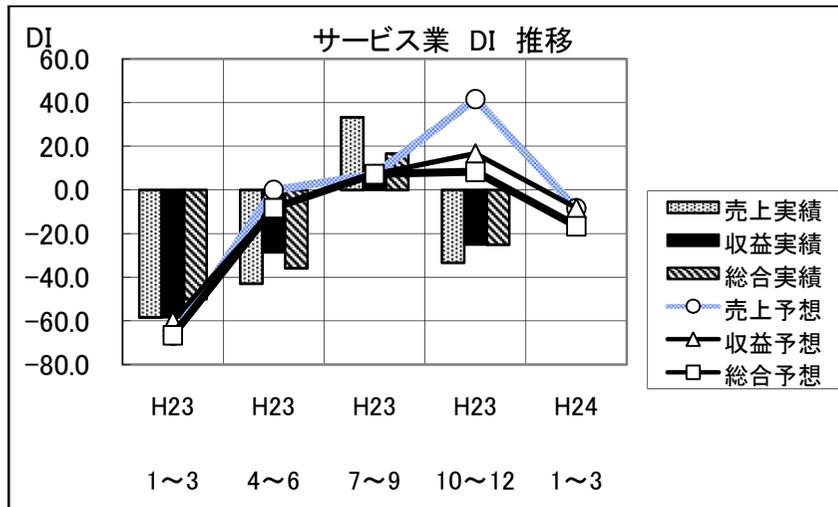
売上DI値は△33.3、前期実績7～9月期(33.3)に比して66.6ポイントの下降、収益DI値は△25.0、前期実績7～9月期(8.3)に比して33.3ポイントの下降、総合判断DI値は△25.0、前期実績7～9月期(△16.6)に比して41.6ポイントの下降と、売上・収益・総合ともに悪化傾向であった。

向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合判断とも改善傾向だが、水面下に留まる慎重な見通し。

サービス業

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成22年10月～12月 に比べて	前期比 平成23年7～9月 に比べて	来期見通し 平成24年1～3月 の見通し
①生産額・売上額	-41.6	-33.3	-8.4
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-16.7	-8.3	-16.7
④採算(収益)	-33.4	-25.0	-8.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-25.0	-25.0	-16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-16.7	-25.0	-16.6



<業況判断DIの推移>

	H23.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月見通し
売上	-58.3	-42.8	33.3	-33.3	-8.4
収益	-58.3	-28.6	8.3	-25.0	-8.3
総合	-50.0	-35.8	16.6	-25.0	-16.6

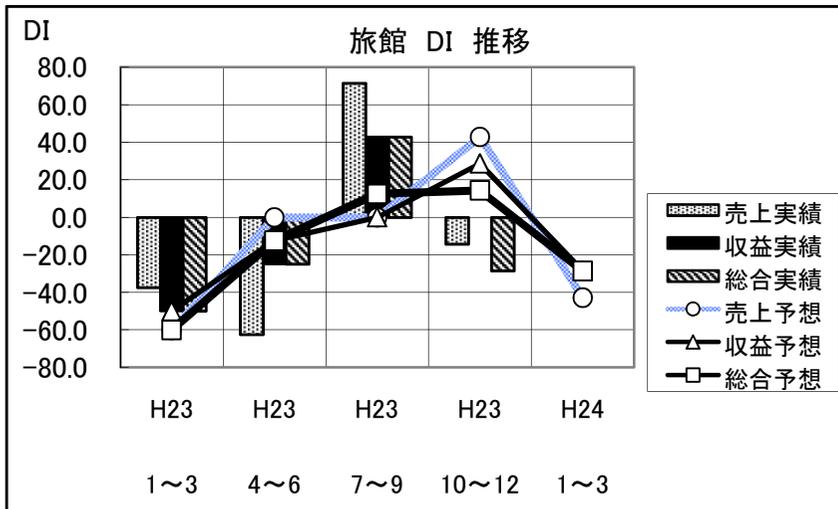
【旅館】

年度当初に比べ回復傾向だが、宿泊者数は全体で5～10%減で推移。企業や団体は、年度単位で動くため、業績は回復傾向でも影響が残る。忘年会も同様で、特にトヨタ関連は震災・タイ洪水発生からの復旧で休暇が減少している。「オンパク」は継続実施したい。蒲郡の四季を体感できる蒲郡らしいプログラムで、個人旅行者向けのネット発信等を強化したい。一方で、若者の車離れや飲酒運転の罰則強化の影響からかバスツアーも昨今盛況。ターゲットを見据えた情報発信・販売を心がけたい。また日帰りへの対応も始めたが、単なる食事プランでなく滞在・体験プログラムを組み込んだ「旅行」として販売したい。多くの利益は望めないが「また来たい」と思ってもらえるキッカケづくりである。向こう3カ月の見通し 新年会および今後の見通しは減少基調。しかし、トヨタ関連会社が回復基調にあり歓送迎会へ期待。3月の観光交流フェアでのミニオンパクは次に繋がる事業にし、観光業だけでなく商業・サービス業・製造業など街全体で一体感を持って実施したい。蒲郡温泉郷で継続実施している「冬春割(宿泊プラン)」は、旅館ごとの特色を出したい。なお、新たに誕生する蒲郡クラシックホテルとも協調したい。(観光部会)

(旅館)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成22年10月～12月 に比べて	前期比 平成23年7～9月 に比べて	来期見通し 平成24年1～3月 の見通し
①生産額・売上額	-28.6	-14.3	-42.8
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	-28.6
④採算(収益)	-14.3	0.0	-28.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-28.6	-28.6	-42.9
⑥貴社の業況(総合判断)	-14.3	-28.6	-28.6



<業況判断DIの推移>

	H23.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月見通し
売上	-37.5	-62.5	71.4	-14.3	-42.8
収益	-50.0	-25.0	42.8	0.0	-28.6
総合	-50.0	-25.0	42.8	-28.6	-28.6

運輸通信業

売上DI値は△14.3、前期実績7～9月期(△42.8)に比して28.5ポイントの上昇、収益DI値は△14.3、前期実績7～9月期(△28.6)に比して14.3ポイントの上昇、総合判断DI値は△14.3、前期実績7～9月期(△14.3)に比して横バイと、水面下ではあるが売上・収益は改善傾向にある。

向こう3カ月の見通しについては、売上・収益・総合ともに悪化傾向で、厳しい見通し。

運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成22年10月～12月 に比べて	前期比 平成23年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成24年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-42.9	-14.3	-85.7
②製品・商品在庫	-14.3	-14.3	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	-14.3
④採算(収益)	-42.9	-14.3	-57.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-28.6	-14.3	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-57.1	-14.3	-57.1

[旅客・貨物輸送・水運]

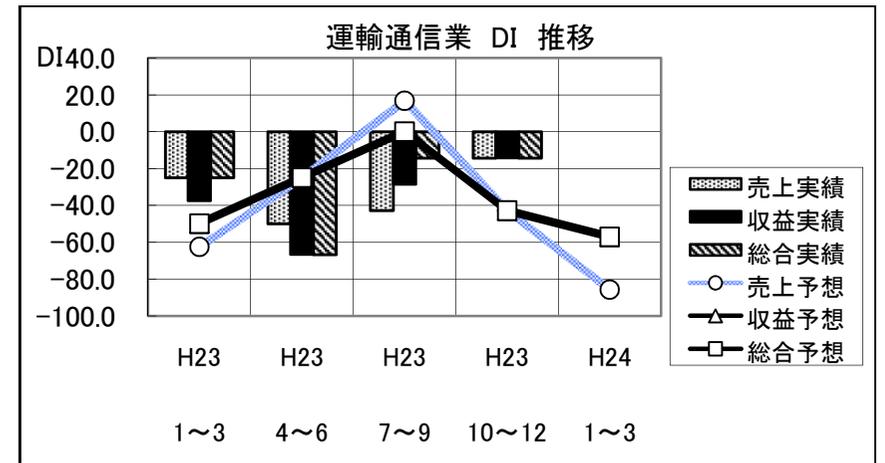
<貨物輸送> 自動車産業をはじめとする製造業の生産は一時的に持ち直しの兆しをみせていたが、欧州の債務問題や米国の景気減速、さらにはタイの洪水により、増加傾向にブレーキがかかり輸送数量は前年から微増に留まる。ただ、一部の業種(ロープ・漁網)では復興需要もあり東北方面への輸送は活況を呈する。輸入は国内消費の低迷により、木材等の原材料について対前年微増が続く。輸出は史上最高値を更新した円高や、タイの洪水の影響でメーカーの生産計画見直しが進み、数量は対前年横バイ。完成車の輸出台数は施設の工事遅延も影響して、対前年△70%となった。向こう3カ月の見通し 円高の恒常化、欧州債務問題、タイの洪水の影響等、景気への不安要因が多い中、時間経過とともに外部環境が多少改善してくると見られ、国内輸送数量もようやく持ち直しに転ずる見込み。輸入は円高の影響はさほど受けず、国内需要の低迷から、木材等の原材料も対前年微増の見込み。輸出は、円高と欧州の債務問題、米国の景気後退から生産計画が見直され、台数は対前年△60%となる見込み。

<バス業界関係> 震災後に比べ個人旅行は動きが出てきている。向こう3カ月の見通し。概ね横バイで推移する見込み。(運輸交通港湾部会)

(旅客・貨物輸送・水運)

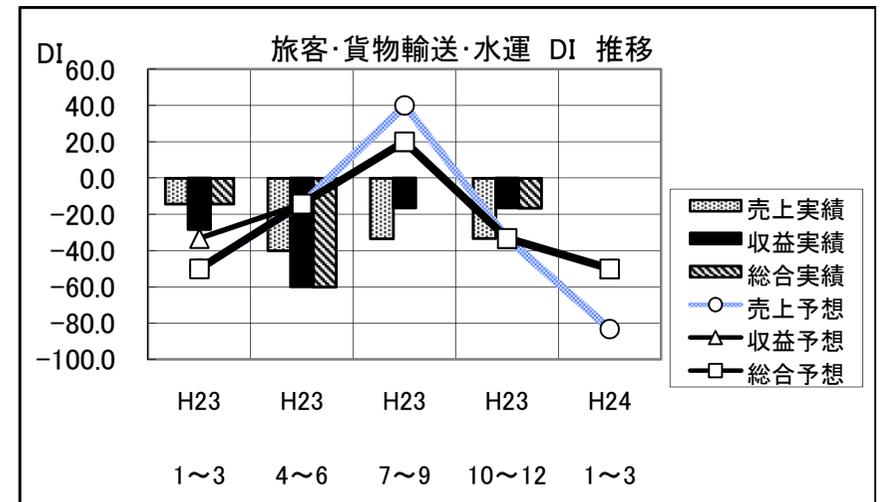
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成22年10月～12月 に比べて	前期比 平成23年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成24年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-33.3	-33.3	-83.3
②製品・商品在庫	-16.7	-16.7	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-33.3	-16.6	-50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-16.6	-16.6	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-50.0	-16.6	-50.0



<業況判断DIの推移>

	H23.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-25.0	-50.0	-42.8	-14.3	-85.7
収益	-37.5	-66.7	-28.6	-14.3	-57.1
総合	-25.0	-66.7	-14.3	-14.3	-57.1

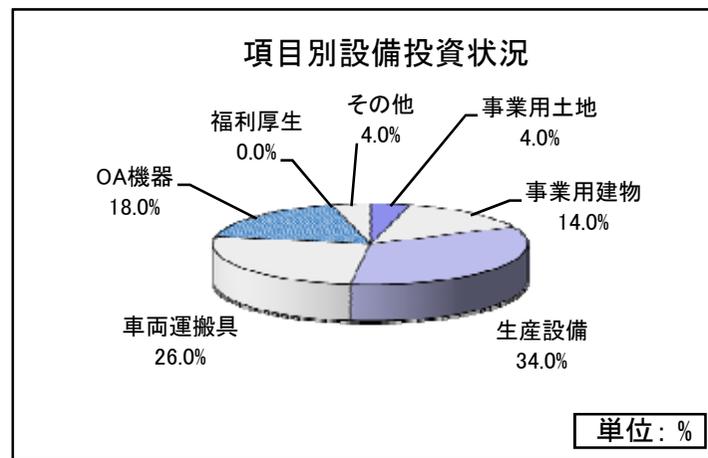
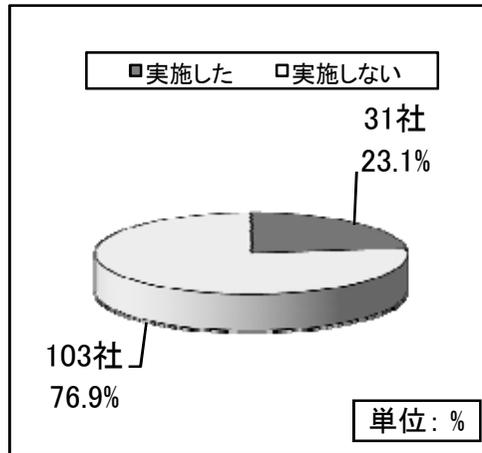


<業況判断DIの推移>

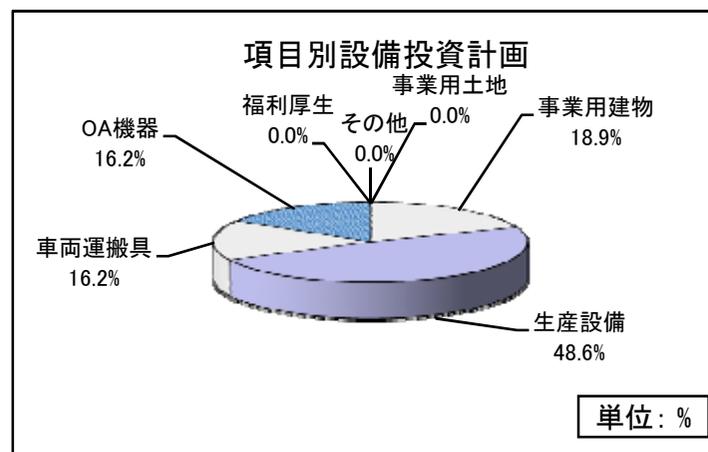
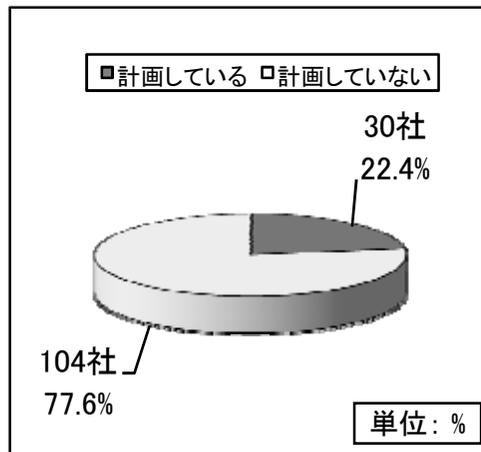
	H23.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月見通し
売上	-14.3	-40.0	-33.4	-33.3	-83.3
収益	-28.6	-60.0	-16.6	-16.6	-50.0
総合	-14.3	-60.0	0.0	-16.6	-50.0

7. 設備投資動向

＜今期(H23. 10～12月)設備投資実施状況 全業種＞



＜来期(H24. 1～3月)設備計画 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今 期	来期見通し
事業用土地	2	0
事業用建物	7	7
生産設備	17	18
車両運搬具	13	6
OA機器	9	6
福利厚生	0	0
その他	2	0
計	50	37

(単位:件)

◎今期(H23.10～12月)、来期(H24.1～3月)設備投資実施、計画動向

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期 (H23.10～12月)	31	20	0	2	3	4	2
2. 来期 (H24. 1～3月)	30	19	0	2	2	5	2

(単位:事業所)

8. 経営上の問題点

項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 135 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	92 68.1%
2	利幅の縮小	74 54.8%
3	競争激化	57 42.2%
4	原材料(燃料)高	37 27.4%
5	消費者ニーズの変化の対応	20 14.8%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業 56 社	売上の停滞・減少 30 社 53.6%	利幅の縮小 30 社 53.6%	原材料(燃料)高 22 社 39.3%
建設業 10 社	売上の停滞・減少 9 社 90.0%	利幅の縮小 9 社 90.0%	競争激化 6 社 60.0%
卸売業 18 社	売上の停滞・減少 14 社 77.8%	競争激化 9 社 50.0%	利幅の縮小 9 社 50.0%
小売業 32 社	売上の停滞・減少 23 社 71.9%	利幅の縮小 17 社 53.1%	競争激化 16 社 50.0%
サービス業 12 社	売上の停滞・減少 9 社 75.0%	利幅の縮小 6 社 50.0%	競争激化 4 社 33.3%
運輸通信業 7 社	売上の停滞・減少 7 社 100.0%	原材料(燃料)高 4 社 57.1%	利幅の縮小 3 社 42.9%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

付帯調査(地域デ-タ)

53

番号	調査項目	単位	H24.1報告	基準日	H23.10報告	基準日	H23.7報告	基準日	H23.4報告	基準日	出典
1	人口	人	80,628	H24.1.1	80,658	H23.10.1	80,806	H23.6.1	80,898	H23.4.1	蒲郡市市民課 住民基本台帳 (日本人のみ)
2	世帯数	世帯	29,367	H24.1.1	29,319	H23.10.1	29,234	H23.6.1	29,206	H23.4.1	"
3	15才～65才生産人口	人	50,773	H24.1.1	50,785	H23.10.1	50,937	H23.6.1	50,965	H23.4.1	蒲郡市 市民課
4	外国人登録者数	人	2,067	H24.1.1	2,048	H23.10.1	2,051	H23.6.1	2,035	H23.4.1	"
5	建築確認届出件数	件	107	H23.9～11月	130	H23.6～8月	102	H23.6.1	107	H22.12～H23.2月	蒲郡市建築住宅課 受付件数 (建物の新築および増築の合計件数)
6	全国完全失業率	%	4.5	H23.11月	4.3	H23.8月 ()	4.5	H23.5月 ()	4.6	H23.2月	総務省 「労働力調査」
	愛知県完全失業率	%	3.3	H23.7～9月	4.0	H23.4～6月	3.7	H23.5月	3.9	H22.10～12月	愛知県 「労働力調査地方集計結果」
7	全国有効求人倍率	倍	0.69	H23.11月	0.66	H23.8月	0.61	H23.5月	0.62	H23.2月	厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.76	H23.11月	0.64	H23.8月	0.43	H23.5月	0.52	H23.2月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所 業務月報より

() 統計数値に、岩手・宮城・福島を除く集計です。

全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶電力除)前年比(%)	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 実質季節調整系列(前期比)	消費支出 前年同月比% 実質	新車販売台数 (万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	500.3		1.0	-
1997年度	236	3.5	0.69	3.9	1,341,347	509.6		0.2	-
1998年度	294	4.3	0.50	18.6	1,179,536	498.4		0.8	-
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	497.6		1.8	-
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	502.9		1.2	-
2001年度	340	5.0	0.59	12.6	1,173,170	497.7		3.4	405.9
2002年度	359	5.4	0.54	3.7	1,145,553	491.3		0.6	396.6
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	490.2		0.2	402.7
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	498.3		0.4	396.2
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	501.7		0.4	392.8
2006年度	275	4.1	1.06	2.0	1,285,246	507.3		2.2	371.5
2007年度	257	3.9	1.04	0.7	1,060,741	515.5		0.9	342.8
2008年1月	256	3.8	0.98		86,971			3.6	24.1
(平成20年)2月	266	3.9	0.98	4.6	82,962	126.9	0.8	0.0	32.2
3月	268	3.8	0.95		83,991			1.6	47.1
4月	275	4.0	0.93		97,930			2.7	23.2
5月	270	4.0	0.93	1.1	90,804	125.0	1.3	3.2	22.1
6月	265	4.1	0.90		100,929			1.8	28.1
7月	256	4.0	0.88		97,212			0.5	30.2
8月	272	4.1	0.85	5.2	96,905	121.4	1.2	4.0	19.3
9月	270	4.0	0.83		97,184			2.3	31.0
10月	255	3.8	0.80		92,123			3.8	23.3
11月	256	4.0	0.76	23.3	84,277	127.8	3.2	0.5	21.5
12月	270	4.3	0.73		82,197			4.6	18.3
2009年1月	277	4.1	0.67		70,688			5.9	17.4
(平成21年)2月	299	4.4	0.59	36.9	62,303	115.2	3.8	3.5	21.8
3月	335	4.8	0.52		66,628			0.4	32.3
4月	346	5.0	0.46		66,198			1.3	16.6
5月	347	5.2	0.44	37.7	62,805	116.9	1.6	0.3	17.8
6月	348	5.4	0.43		68,268			0.2	24.3
7月	359	5.7	0.42		65,974			2.0	28.9
8月	361	5.5	0.42	27.0	59,749	114.7	0.2	2.6	19.8
9月	363	5.3	0.43		61,181			1.0	32.1
10月	344	5.1	0.43		67,120			1.6	26.3
11月	331	5.2	0.43	4.8	68,198	124.2	1.9	2.2	29.3
12月	317	5.1	0.43		69,298			2.1	25.0
2010年1月	323	4.9	0.46	20.7	64,951			1.7	23.8
(平成22年)2月	324	4.9	0.47	27.9	56,527	117.9	1.6	0.5	29.4
3月	350	5.0	0.49	12.7	65,008			4.4	44.3
4月	356	5.1	0.48	32.0	66,568			0.7	22.2
5月	347	5.2	0.50	16.2	59,911	119.4	1.1	0.7	22.8
6月	344	5.3	0.52	26.0	68,688			0.5	29.3
7月	331	5.2	0.53	20.8	68,809			1.1	33.3
8月	337	5.1	0.54	38.8	71,972	118.6	0.5	1.7	29.0
9月	340	5.0	0.55	12.7	71,998			0.0	30.8
10月	334	5.1	0.56	20.2	71,390			0.4	19.3
11月	318	5.1	0.57	17.9	72,838	125.7	0.0	0.4	20.3
12月	298	4.9	0.57	7.2	74,517			3.3	17.9
2011年1月	309	4.9	0.61	27.6	66,709			1.0	18.7
(平成23年)2月	302	4.6	0.62	31.4	62,252	115.3	1.7	0.2	25.2
3月	304	4.6	0.63	5.5	63,419			8.5	27.9
4月	309	4.7	0.61	2.3	66,757			3.0	10.8
5月	293	4.5	0.61	16.4	63,726	114.6	0.5	1.9	14.2
6月	293	4.6	0.63	12.2	72,687			4.2	22.5
7月	292	4.7	0.64	2.3	83,398			2.1	24.1
8月	276	4.3	0.66	1.0	81,986	115.2	1.4	4.1	21.6
9月	275	4.1	0.67	5.9	64,206			1.9	31.3
10月	288	4.5	0.67	5.8	67,273			0.4	24.7
11月			0.69		72,635				25.2

(総務省)

(厚労省)

(内閣府)

(国土交通省)

(内閣府)

(総務省)

(自販連統計)

統計により、岩手・宮城・福島を除くものもございます。